授与機関名　順天堂大学

学位記番号　乙第 2416 号

Superior Thoracic Aperture Size is Significantly Associated with Cervical Anastomotic Leakage After Esophagectomy

（胸骨上縁での胸郭の広さと食道切除術における頸部吻合縫合不全とは関連がある）

峯　真司（みね　しんじ）

博士（医学）

論文審査結果の要旨

本論文は、胸骨上縁での胸骨椎体間距離から気管前後径を引いた距離が食道癌手術における頸部吻合縫合不全の危険因子であることを始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。食道癌手術における縫合不全の危険因子としては、吻合方法、再建経路、吻合部位、患者因子（糖尿病、合併症、胃管血流、栄養状態、放射線照射歴）などが報告されているが、体格に関する報告はほとんどない。食道癌手術時に頸部吻合する場合には胃管が縦郭を通って頸部に挙上されるが、胸骨上縁での胸郭の広さには個人差が大きい。この広さについて術前 CT を用いて胸骨上縁での胸骨椎体間距離から気管前後径を引いた距離で代用し、頸部吻合縫合不全率との関連を後方視的に検討したのが本研究である。結果として、胸骨椎体間距離から気管前後径を引いた距離が短いほど縫合不全率が高いことが明らかになり、多変量解析でも唯一の独立した因子として抽出された。またこの関係は胸骨後経路よりもむしろ後縦郭経路において顕著であった。

本研究の結果から胸骨上縁での胸郭が狭い場合には頸部吻合での縫合不全発生率が高いと予想できる。そのような場合にはあらかじめ胸腔内吻合を選択する、胸骨柄の一部を切除する等の対処法を行うことで縫合不全発生率を更に低下できるのではないかと期待される。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。